

# 格段にうまくいく カテーテルアブレーションの基本とコツ 改訂版

エキスパートが教える安全・確実な手技と合併症対策

高橋 淳／編

評者 山下武志 公益財団法人心臓血管研究所 所長

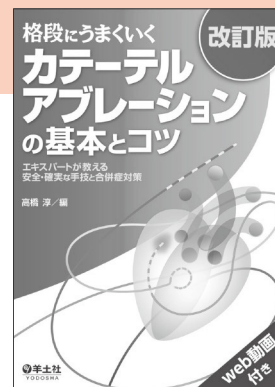
このたび、羊土社から「格段にうまくいく カテーテルアブレーションの基本とコツ」改訂版が出版された。2015年の初版から約7年が経過し、この間の技術革新を取り込んだカテーテルアブレーションの実践テキストである。羊土社は、雑誌「実験医学」に代表される生命科学系の出版も精力的に行っているが、筆者には、本書に代表されるような臨床現場における実践書、指南書を得意としている出版社というイメージがある。実際、2006年に出版されたベストセラー「心電図の読み方パーフェクトマニュアル」は、羊土社によるものである。

さて、本書は総ページ数407ページ、著者は全国にまたがる著名なエキスパート41名におよぶ大作である。アブレーションの一から十まですべてが網羅され、これからカテーテルアブレーションの実践を学ぶ医師にとって、この本だけを手元に置いておけばよいと断言できる。実践者にとっては、1ページ目から読む必要はなく、自分の担当するカテーテルアブレーション予定患者の不整脈に沿って、その都度読めばよいように工夫されているので、この本のボリューム感にも圧倒されなくてよいだろう。読み進めると、カテーテルアブレーションの最近の進歩がひしひしと伝わってきた。同時に、不整脈の分野では、「心電図の読み方パーフェクトマニュアル」とセットで、診断と治療の両翼を担う羊土社の力作と感じた1冊である。

編者の高橋淳先生は、この分野の誰もが知る第一人者である。くしくも大学卒業年度が1986年と筆者と全く同じ世代であり、古くから付き合いがあ

る。2000年代前後になるだろうか、カテーテルアブレーションの黎明期に、いどこか学会のディベートセッションでcon, proを二人で務めたことを思い出す。当時、私は、カテーテルアブレーションをその頃巷にいきわたり始めた高価な液晶TV、プラズマディスプレイTV（といったは、若い人たちには想像もできないだろうが・・・、実際に後者はなくなってしまった）に例えて議論していたが、高橋先生から「先生は、テレビの話しかしないな～」と言われたことが懐かしい。液晶テレビがいまや日本中、安価にいきわたったのと同じように、カテーテルアブレーションは安全、確立した不整脈治療となった。高橋先生は、この間スタンダードをできるだけ多くの若手に伝えるという仕事を地道に行ってきたという意味でも、エキスパートの中のエキスパートと呼ぶにふさわしい。

ほめてばかりでは、良い書評とはいえないだろう。2021年、日本医療安全調査機構からカテーテルアブレーションに係わる死亡事例の分析が公表されている。筆者がその部会長となってまとめたものであるが、残念ながら侵襲的治療であるがゆえに、機構にはアブレーションに関連した死亡事例が集積しつつあることも事実である。「術にこだわりすぎれば、術に溺れる」のも事実であり、全体像を見失わないこと、カテーテルアブレーションはコメディカルも含めたチームで行うことも忘れないようにしながら、本書を有効に利用してほしいと願っている。



B5・頁407（付録：WEB動画）2022年3月  
定価：8,910円（本体8,100円＋税10%）  
[ISBN 978-4-7581-0763-1]  
羊土社刊